

名画の模写

～ 日本と西洋の名画を理解しよう ～

知的障がい 高等部3年
選択美術「名画の模写」
資料の活用

ねらい

○原画を見て下絵を似せて描いたり彩色したりすることで、原画への理解を深める。

○県立図書館所蔵の大判の画集を多数閲覧することで、我が国並びに西洋の芸術作品に多く触れ、興味関心を持つ。

学 習 展 開

- ① 前年度の生徒が模写した作品を見て、模写について見通しを持つ。
- ② メモを取りながら用意された画集をできる限り多く閲覧し、興味を持った作品を複数リストアップする。
- ③ リストアップした作品について、美術史的意義と制作技法の解説を聞き、模写する作品を1点選ぶ。
- ④ 自分が選んだ画集の作品をカラーコピーし、透写台を用いて画用紙に下描きする。
- ⑤ 下描きが完成したら、水彩絵の具、ポスターカラー、アクリル絵の具、筆ペン、ロトリング等で彩色する。



初めて手に取る画集の重さにびっくり



生徒模写作品『紙胎漆塗彩絵華籠』

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭は県立図書館に赴き、実際に借用できる画集をリストアップする。
- 学校司書と司書教諭は授業者と事前に打ち合わせをして、指導に用いる画集を選定する。
- 学校司書は県立図書館と連携し、選定した画集の貸出と返却の手続きを行う。
- 司書教諭は授業にＴＴとして入り、画集にある絵の説明や技法の解説を支援する。

★指導のポイント

- ◆ 今まで画集を手にしたことがない生徒も多いので、高価な大判本の取り扱いについて留意する。
- ◆ 画集の副題に注目させ、美術史の時代区分のなかでその絵がどういう意味を持つのかを理解させる。
- ◆ 画集にある技法解説を限られた画材で再現できるよう指導する。

資料

『日本美術全集』 第8～10巻、第12～17巻（小学館）

『世界美術大全集』 第7巻、第10～28巻（小学館）